音楽嗜好の共有を通じた自己開示が 受容性に及ぼす影響



富山県立大学中川航輝山北謙信河崎隆文大倉裕貴岩本健嗣

人生において親密な人間関係を築くことが幸福感に大きく寄与



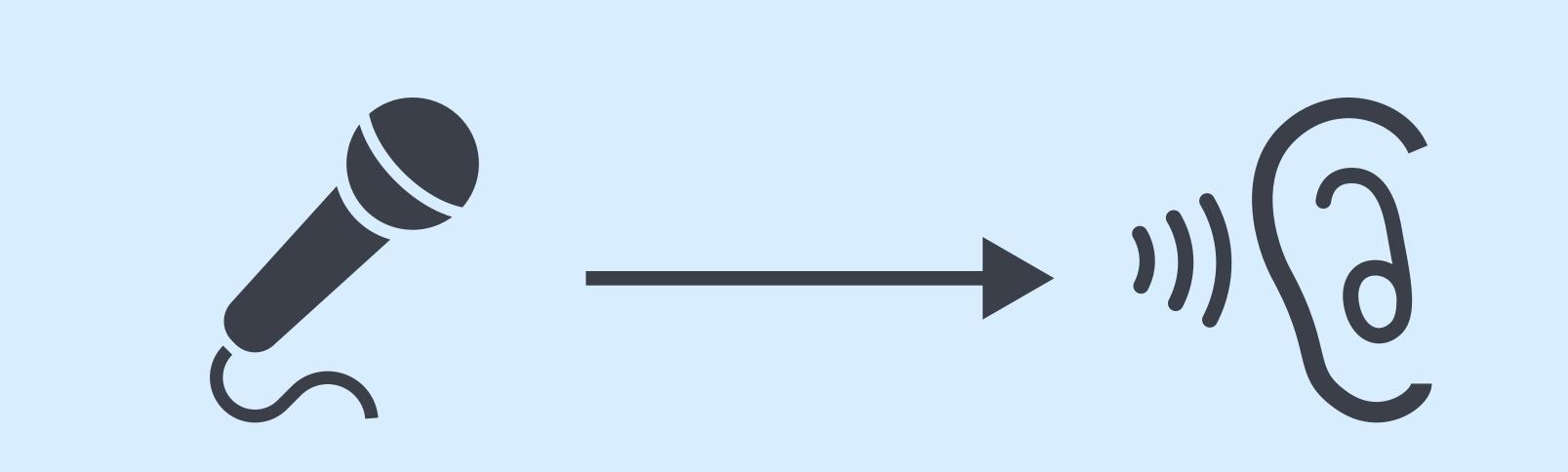
現状 若者は否定される恐れから深い自己開示を避けている[3]

自己開示 - 他者に対して自分自身に関する情報を伝える 受容 - 開示者に対する肯定的な反応や理解を示す

若者の自己開示と受容の促しに「カラオケ」を活用







相互に歌う-聴くという作用

→ 歌唱を伴うカラオケでは 受容への分析が困難

目的·仮託

目的

音楽嗜好の共有を通じた段階的な自己開示が 受容性に及ぼす影響の検証

音楽嗜好の共有 - 音楽を交互に聴かせ合い、曲について話をする

1辰量 1

低レベルから高レベルへと段階的に自己開示を行うことで 高レベルの自己開示であっても受容できる

怎說2

音楽共有の体験において、段階的な自己開示を促すと 自由な会話よりも相互理解が深まる

自己開示レベルの表現

段階的な自己開示を行うため、曲ごとのレベルを3軸で整理

美馬鎮

カラオケを模した閉鎖的な空間での音楽共有セッション友人同士の2人1ペア(計10ペア)

友人 - 普段から交流はあるが深刻な悩みは共有していない関係

「選曲 \rightarrow 楽曲を聴く \rightarrow 対話」を2人が交互に行う(1フェーズ) それを8フェーズ繰り返す





AH E

選曲履歴 アンケート 仮説1 自己開示レベルと受容度の推移

最終フェーズ (7、8) でも受容度が低下せず高い値を維持
4.5
4.0
3.5
1.5
2.0
推薦なし: 自己開示レベル
推薦なし: 受容度
推薦あり: 登容度
推薦あり: 受容度
フェーズ

システムによる促しがなければ高レベルの自己開示はできない

アンケート/ヒアリング 仮説2 実験後の相互理解の変化

